

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国よりも高く、高い定着がみられます。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均を大きく上回っています。一方で「文章の構成から要旨を把握する」ことについては全国を下回り課題がみられます。
- ・算数の平均正答率は全国よりも高く、高い定着がみられます。特に「データの活用」については、全国を大きく上回っています。一方で「図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する」ことについては全国を下回り課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は全国とほぼ同等であり、一定の定着がみられます。特に「地球・粒子を柱とする領域」については、全国平均を上回っています。一方で「金属の正しい性質や乾電池の正しい回路を選ぶ」ことについては全国を下回り課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して、否定的に回答した児童の割合が全国と比べてやや高く課題があります。「学校や授業以外に普段から読書をする時間が30分以下・まったく読書をしていない」と回答した児童の割合が高いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語の「読むこと」の学習では、事実と感想・意見などの関係を叙述に着目しながら押さえ、要旨を捉えるような活動を取り入れます。
- ・算数の「図形」の学習では、複合図形を公式が使える形に分割したり、式や言葉を用いて説明したりするような活動を取り入れます。
- ・理科の「エネルギーを柱とする領域」では、観察や実験をするときに、量的・関係的な視点で捉えられるような活動を取り入れます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を参考に、学習の目的に対して、その内容や方法が工夫されているかを確認したり、それらを一緒に考えたりする機会をできる範囲でつくってください。
- ・親子で同じ時間に本を読み感想を伝え合うなど、読書に親しむ機会を増やしてください。